

議員と話す出前トーク報告書

開催日時	令和7年5月14日（水）15時00分～16時30分	
相手方	代表取締役 柿本薫氏、取締役 柿本晃希氏、課長 沖幸代氏、課長 森本悠子氏、西村友志氏（5名）	
開催場所	株式会社みどりの森	
出席議員	広報広聴委員 森 遥香	
	① 野呂 一平 ②吉川 篤博 ③田中 正造	
	司会進行者	森 遥香
	報告者	森 遥香
	記録者	森 遥香
参加人数	相手方5名、議員4名	
意見・要望等 主な質疑応答	別紙のとおり。	
報告者の所感	別紙のとおり。	

松阪市議会議長 中島 清晴 様

令和 7 年 5 月 28 日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

報告者 森 遥香

① 介護業界と介護保険について

●今後の介護保険料と介護報酬についてどう思うか

議員：介護保険料が上がることは大いにあり得る。次回の大型改定で大きく変わってくると思われる。また、大幅な介護報酬改定も予想される。

●フレイル（予防介護）についてどう思うか

議員：各事業所の努力に頼っている状態。予防介護は介護保険の対象にならないが、大変重要な取り組みのため、事業所の負担減となるよう、市に要望していきたい。

●周辺市町から生活保護受給者の受け入れ相談があるが、市の財政負担増を考えると前向きに受け入れて良いのか悩ましい

議員：どこかで受け皿は必要なので、柔軟に対応していただき頭が下がる。

●介護職の人材不足についてどう思うか

議員：イメージアップを図れずの状態が続いているが、賃金の引き上げができるよう事業所への支援も大切と考える。

●虐待など、問題のある経歴の人物の情報がわかるようにできないか

議員：知らずに受け入れてしまうことが課題だという認識はあるが、市としては個人情報の関係で難しいのが心苦しい。

●介護保険の更新申請の受け入れが遅れているが、どのような状態か

議員：申請者及び更新者が急増している。近隣市ではより遅れが顕著な所もあり、崩壊しかけていると言っても過言ではない状態。

② 障がい福祉サービスについて

●障がい者の引きこもりについて

18歳までは手厚く支援を受けているが、その後、就労支援に行けない方や、デイサービスを受けることを拒否する方は引きこもってしまう方がいる。

議員：そういった方達も今後注視していき、孤立しないような支援を考えたい。

●みえ松阪マラソンやディズニーパレードに多額の税金が導入されているが、福祉の分野では支援が足りないことがたくさんある。また、マラソンのように一部の市民だけが楽しめるものではなく、もっと多くの市民が楽しめるもの（例えば花火大会の再開）にお金を使ってほしい。

●小学生の椅子カバー作成について

新1年生の保護者には椅子カバーの作成依頼があるが、6年間使っているわけではない。元気のいい児童は3年生くらいになるとボロボロになる。生地代2000円＋依頼する場合は作成費2～3000円。生活困窮家庭や、障がいのある親御さんは作成が負担となっている。

③ 学童保育について

●民設民営学童に対して市からの補助はないか

●午前中に仕事がないため学童支援員の正社員雇用は難しい。何か良い案はないか

議員：第二小学校区は30人に満たず、赤字運営となる。第五小学校区くらいの人数規模なら別だが。学校生活支援アシスタントの人材も人が足りない。学童も人の取り合い。

また、来年度以降、統廃合が進む地区は空き教室を借りれることが考えられるが。

●少子化と言えど共働き家庭が増えてくるため、学童が足りない。狭い所に児童を入れすぎると事故が起きることも懸念される。場所も足りない。

●松阪は子育て1番宣言なのであれば、学童の体制を改革してほしい

議員：保護者運営を続けたいという地区もあり、まとまりきっていない状況。困っている課題もそれぞれの地区で違うため、各運営所ごとに声を上げて頂くことが大切。学童の指定管理は、事業費と運営費を最初の段階でしっかり予算づけをすることが大切。

●学童支援員の統一されたマニュアル（理念、心構え）を市で策定してほしい。

議員：生活アシスタントは市で研修を行っているため、可能だと思われる。市に働きかけたい。

④ 災害対策について（Business Continuity Plan）災害や事故などの発生時の事業継続、早期復旧計画

●水害指定地域のため、2階に上がる形で避難想定は組んでいるが、何か施設の避難について補助や支援はあるか？

議員：現在事業所で策定しているBCPの内容に対し、防災対策課にアドバイスを求めブラッシュアップすることも有効だと考える。福祉避難所の設置要綱がHPに掲載されているので、それを参考にもしてもらってはいかがか。

現在の市の災害への備えは不足しているため、各事業所で十分な備えを行って頂きたい。

報告者所感

事業所より後日、「とても有意義な時間であった。また次回も出前トークを利用したい。」と言って頂いた。事業所の代表者の方も、従業員さんが抱えている悩みや課題の把握ができたという副産物があったようである。

また、「行政のことについて不明なことがあっても、なかなか誰に/どこに相談したら良いのかわからなかったため、議員という存在を身近に感じる事ができて良かった。」という声もあった。

福祉の分野については法改正も頻繁に行われ、内容も複雑である。行政が行う支援と、実際現場で求められていることとのミスマッチもあるのだと、改めて課題を感じた。

議員と話す出前トークの様子

